

令和5年度 主要施策成果報告書

猪名川上流広域ごみ処理施設組合

主要な施策の成果その他の予算執行の実績について報告

地方自治法第233条第5項の規定に基づく令和5年度における主要な施策の成果その他の予算執行について提出します。

令和6年8月9日

猪名川上流広域ごみ処理施設組合

管理者 越田 謙治郎

1. 決算額の概要

(1) 歳入歳出決算総括表

実質収支に関する調書

(単位：円)

区 分		金 額
1	歳 入 総 額	2,509,636,081
2	歳 出 総 額	2,373,913,474
3	歳 入 歳 出 差 引 額	135,722,607
4	(1)継続費遞次繰越額	10,425,800
	(2)繰越明許費繰越額	0
	(3)事故繰越し繰越額	0
	計	10,425,800
5	実 質 収 支 額	125,296,807
6	実質収支額のうち地方自治法第233条の2の規定による基金繰入額	0

総 括

平成21年4月の国崎クリーンセンター本格稼働から15年が経過し、令和4年度から令和7年度の4年間を期間とする第3期焼却施設等管理運営業務委託（包括委託）の2年目を迎えるなか、安定した運転管理を維持することができた。排ガス等の測定など環境影響調査の結果については、環境保全委員会、周辺地域住民協議会に報告し理解をいただいた。

受け入れごみ総量は54,708.51トンで、前年度に比べ2.8%の減となった。

主な要因としては、可燃ごみ、粗ごみ、容器包装プラスチック等が減少となったことによるものである。

ごみの総量については、平成28年度からの川西市の大型ごみ収集有料化の影響を受けた平成27年度をピークに微減傾向となり、平成30年度、令和元年度は微増に転じたが、その後の経年変化を見ると減少傾向にある。ごみ総量の令和元年度と令和5年度を比較すると8.3%の減少となっている。

焼却施設においては、前年度に比べ1.28%増の51,250.45トンのごみの焼却を行った。焼却による、排ガス、排水、処分物等についても良好な数値を継続して記録した。

また、リサイクルプラザではペットボトル、容器包装プラスチック、缶・ビン類など再資源化を図るための選別や処理を行い、前年度に比べ4.1%減となる4,116.81トンの資源等を搬出した。搬出量については、減少傾向にあるが、特に容器包装プラスチック、ビン類の減少幅が大きい。

啓発施設 ゆめほたる においては、令和4年度から令和10年度を期間とする第4期指定管理の2年目を迎え、「学ぶ・知る機会の提供」や「地域と連携」「広める活動」などを引き続き推進、展開するとともに、今年度においてもトライやる・ウィークの受け入れや、構成市町と協力しSDGsパネル展示などの環境啓発を行った。

また、広報・情報発信活動については、令和4年度にリニューアルしたホームページと Instagram による情報発信に努め、広報誌「森の泉」をA4冊子に変更し、読者を引き付ける紙面づくりに努めた。

(2) 歳入歳出一覧表

歳 入

(単位:円)

款	項	予算現額	調定額	収入済額	不納 欠損額	収入 未済額	予算現額と収入 済額との比較
01 分担金及び 負担金		1,811,528,000	1,811,528,000	1,811,528,000	0	0	0
	01 負担金	1,811,528,000	1,811,528,000	1,811,528,000	0	0	0
02 使用料及び 手数料		171,475,000	172,497,229	172,497,229	0	0	△1,022,229
	01 使用料	514,000	528,529	528,529	0	0	△14,529
	02 手数料	170,961,000	171,968,700	171,968,700	0	0	△1,007,700
04 繰越金		214,603,750	214,604,318	214,604,318	0	0	△568
	01 繰越金	214,603,750	214,604,318	214,604,318	0	0	△568
05 諸収入		254,100,000	311,006,534	311,006,534	0	0	△56,906,534
	02 雑入	254,100,000	311,006,534	311,006,534	0	0	△56,906,534
歳 入 合 計		2,451,706,750	2,509,636,081	2,509,636,081	0	0	△57,929,331

歳 出

(単位:円)

款	項	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	予算現額と支出 済額との比較
01 議会費		2,486,000	2,053,842	0	432,158	432,158
	01 議会費	2,486,000	2,053,842	0	432,158	432,158
02 総務費		83,007,000	78,310,564	0	4,696,436	4,696,436
	01 総務管理費	82,903,000	78,238,564	0	4,664,436	4,664,436
	02 監査委員費	104,000	72,000	0	32,000	32,000
03 衛生費		2,163,297,750	2,095,633,628	10,425,800	57,238,322	67,664,122
	01 清掃費	2,163,297,750	2,095,633,628	10,425,800	57,238,322	67,664,122
04 公債費		197,916,000	197,915,440	0	560	560
	01 公債費	197,916,000	197,915,440	0	560	560
05 予備費		5,000,000	0	0	5,000,000	5,000,000
	01 予備費	5,000,000	0	0	5,000,000	5,000,000
歳 出 合 計		2,451,706,750	2,373,913,474	10,425,800	67,367,476	77,793,276

歳入については、予算現額2,451,706,750円に対し、決算額は2,509,636,081円であり、予算現額に対する収入割合は102.36%であった。また、歳入決算額の内、構成市町からの負担金が1,811,528,000円で、歳入総額に占める割合は72.18%

であった。

歳出については、決算額は2,373,913,474円で、予算現額に対する執行割合は96.83%であった。

また、ごみ処理に係る経費を主とする衛生費が2,095,633,628円（歳出全体の88.27%）、公債費が197,915,440円（歳出全体の8.34%）で、歳出総額に占める衛生費と公債費を併せた割合は96.61%であった。

（3）公債残高の状況

（単位：千円）

	令和4年度末 現在高	令和5年度 発行額	令和5年度 償還元金額	差引現在高	残 高		
					1.5%以下	2.0%以下	3.0%以下
財政融資資金	2,803,206	0	1,033,441	0	0	0	
旧郵政公社資金	0	0	0	0	0	0	
合 計	2,803,206	0	1,033,441	0	0	0	

財政融資資金の元金、195,710,950円を償還し、年度末における現在高は0円となり完済となった。なお、償還に係る利子は2,204,490円であった。

2. 予算の主な執行状況

（1）議会費

・議会運営事業

定例会を2回（8月、2月）、臨時会を2回（10月、11月）、議員総会を4回（定例会及び臨時会と同日）開催し、議案等を審議に付した。また、それぞれの議事録を作成した。

（2）総務費

・総務管理事業

広報誌「森の泉」については、構成市町と同じ判型のA4冊子にリニューアルを行い、デザインを改め、写真を多用することで視覚的にわかりやすい広報誌とし、予算及び決算などの財務状況、分別の案内、危険物の啓発や啓発事業に係るイベントなどの各種情報発信を行い、1市3町の全戸に年4回配布した。

・環境保全委員会事業

環境保全委員会を4回開催し、施設稼働に伴う環境影響調査の結果等について報告し、専門的な見地及び住民からの視点で各種の質問や意見を出していただき、説明を行うことで、施設運転に対する信頼の確保に努めた。

委員の任期終了（令和5年9月30日）に伴い、周辺地域住民代表委員5名の推薦をいただき、また、組合区域住民委員6名を公募し決定した。

- ・緑地等維持管理事業

里山林内の倒木と危険木の伐採を専門業者に委託した。

また、獣害防止対策と植生の生育環境保全のため敷地内に12メートル四方のパッチディフェンス5箇所を設置した。

自然学習ゾーン内に試験植栽したミツマタは順調に生育しており、指定管理者とともに経過観察を継続するとともに、ミツマタと同様に鹿の不嗜好植物であるガンピの試験植栽を行い維持管理に取り組んだ。

(3) 衛生費

- ・施設管理事業

猪名川上流広域ごみ処理施設組合が設置するごみ処理施設に係る環境影響調査等の実施に関する条例（平成23年条例第37号）に基づき、当センターから排出される、窒素酸化物、ダイオキシン類などの排出ガス及び溶融飛灰や焼却灰（大塊物・磁性灰）などの排出源分析業務と魚類、植生などの調査を行う環境影響調査業務等の委託を行った。

また、令和4年度から事業期間4年間の第3期焼却施設等管理運営業務を実施しているところであるが、当該業務の実施状況のモニタリングについて、施設の運転状況や機器のメンテナンスに関し専門的な立場からの技術支援を得てチェックするとともに、組合に対する助言等により施設組合職員の管理運営技術の向上に努めた。

さらに、令和8年度から予定している第4期事業を見据え、焼却施設の大規模改良工事に向け、事業方式検討調査を行い、経済的かつ効率的な大規模改良工事が可能となる検討結果が得られた。

そして、持ち込みごみの不適物混入を予約段階でくい止めるため、引き続き予約受付専任の会計年度任用職員を雇用し適正化を図った。

- ・ごみ処理事業

当センターの性能を発揮させ、将来に渡って、より安全で安定的かつ効率的な管理運営を推進するため、第3期の焼却施設等管理運営業務を令和4年度から令和7年度の4年間にわたりプラントメーカーに実施させる包括委託を開始し、安定した焼却施設稼働を実施した。

また、継続して溶融スラグの有効利用を行うとともに、溶融飛灰については非鉄金属を回収し再使用する山元還元を実施し経費の削減と再資源化に努めた。

- ・啓発事業

第4期指定管理事業の2年目である令和5年度は、新型コロナウイルス感染拡大前の条件で講座やイベントを実施できるようになったことで、来館者も戻りつつある。

「ジャズとホテルの夕べ」「天体観望会」など、自然環境を活かしたイベントや出前展示及び出前講座を継続的に実施することで、2万人を超える様々な世代の人たちに利用いただいた。

また、市町を超えた縁も実現した。能勢町の小学生が制作したペットボトルアート作品がゆめほたるでの展示を通じて川西市内の商業施設で出前展示されたり、豊能町の小学生が社会見

学をきっかけに、廃材で制作した竹楽器を、川西市のアーティストがコンサートで使用するなど、ゆめほたるの取り組みが、地域の人と人とを繋げる成果となった。